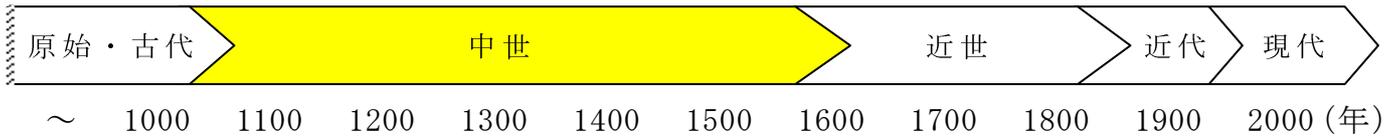


5 中世民衆のくらしとひろしま ～草戸千軒町遺跡～

くさどせんげんちょういせき



1 草戸千軒町遺跡とはどのような遺跡でしょうか？

草戸千軒(13世紀中頃～16世紀初頭)は福山市内を流れる芦田川(あしだ)の川底から発見された中世の町です。

幻(まぼろし)の町とよばれる草戸千軒は、いくつかの転機を経て現代に再びよみがえることになりました。その転機の一つは、芦田川の河川改修工事です。

これを機に大規模な発掘調査(はくくつちょうさ)が1961(昭和36)年から30年以上にわたって行われ、記録に残っていない当時の生活や文化が明らかになってきました。



草戸千軒町遺跡全景(1986年頃)
(広島県立歴史博物館提供)



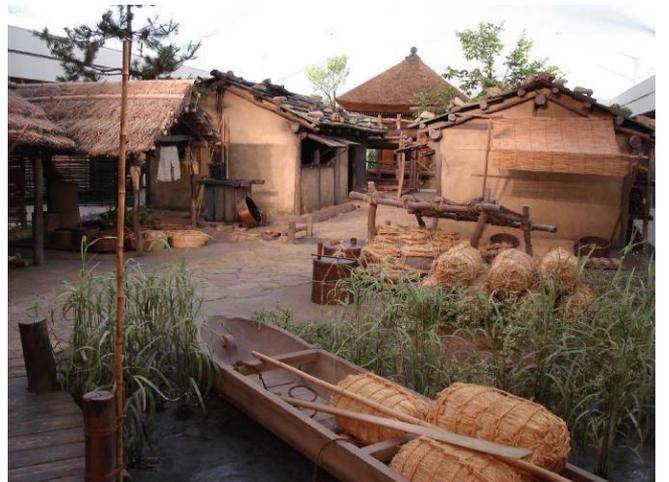
草戸千軒における民衆の仕事やくらしはどのようなものだったのでしょうか？

2 草戸千軒とはどのような町だったのでしょか？

草戸千軒という町の名前の由来は諸説あります。神奈川県藤沢市(しやうじやうこうじ)清浄光寺所蔵(じしやうかこちやう)の『時衆過去帳』(びんご)で「備後草津」(ゆいあみだぶつ)において、1343(康永2)年に唯阿弥陀仏(おうじやう)という人物が往生したと記録されています。この「草津」というのが遺跡周辺の地名だったと考えられます。また、1391(明德2)年の『西大寺諸国末寺帳』(さいだいじしよこくまつじちやう)には「クサイツ草出(じやうふくじ) 常福寺」という記載(きささい)があります。この町は本来「草津」という名前で、おそらく「くさいづ」「くさいじ」などと発音されていたと考えられます。時を経て「くさど」に変化したと考えられます。

「草津」の「草」は草野球などにも使われるように、「一般の」「民間の」などの意味があります。「津」は船着き場や港であることを示します。

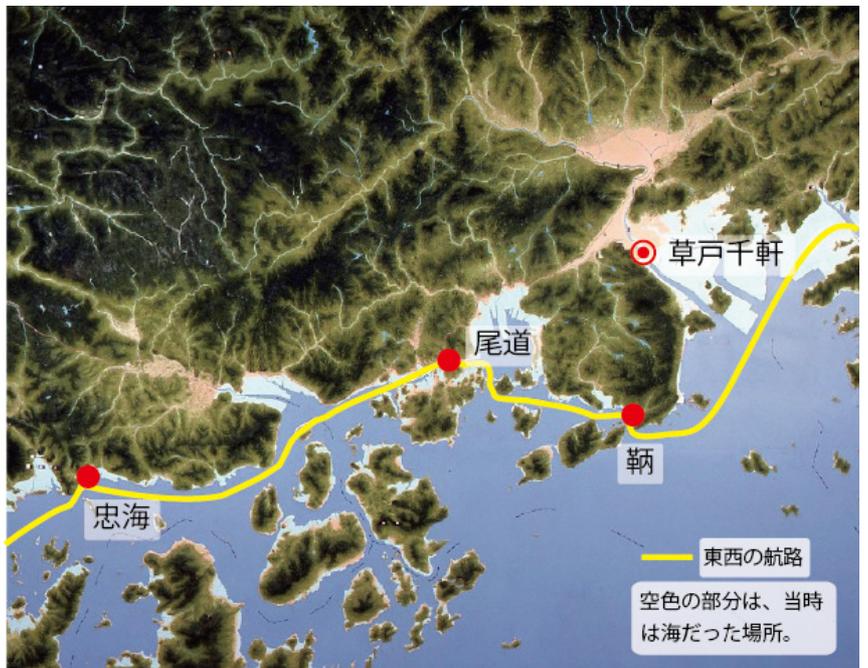
次のページの地形図を見ると、現在の福山湾沿岸と地形が大きく異なることが分かります。かつての福山湾の沿岸(ふくやまわん)だった場所には、この他に「吉津」(よしづ)「奈良津」(ならづ)「深津」(ふかつ)といった地名も残っています。芦田川が瀬戸内海に流れ出る福山湾岸地域は、陸と海を結ぶ交通交易(きよてん)の拠点としての役割をになって



復元された町並み(広島県立歴史博物館内)

いたということです。

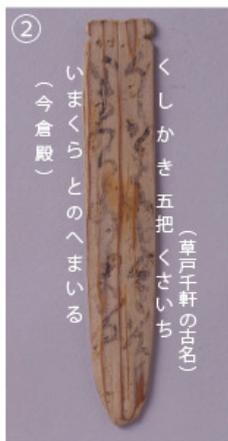
草戸千軒の位置は、芦田川の河口付近に当たり、当時、大きな港町であった鞆と内陸の地域とを結ぶ位置にありました。鞆は、瀬戸内海の航路の重要な港で、東西を行き交う多くの商船が停泊しました。つまり、草戸千軒は、瀬戸内海を東西に結び、遠くは中国・朝鮮へとつながるルート(→P20地図)と間接的につながっていたことが分かります。



中世の備後南部の港町と航路

3 草戸千軒町遺跡の出土品からどのようなことが分かるのでしょうか？

草戸千軒町遺跡からは、多くの木簡が出土しています。その中には、商品取引の明細が書かれているものがあります。これらは一般にメモ書きとして使用されていたようです。また、甕に入った大量の銭も出土しています。この貨幣はほとんどが中国銭で、これらの様子から草戸千軒では商業活動が盛んに行われており、裕福な者も存在していたことが明らかになりました。



銭塊

- ①は灯明油の売買を示します。
- ②の「いまくらとの」は、金融業者と考えられています。
- ③「貫文」は、お金(銅銭)の単位。右の銭塊は5貫文です。

□右上の銭塊は銅銭1文が約5000枚、甕に入った一括銭は約2万枚あります。銅銭1文が50～100円とすると現在の価値でそれぞれいくらでしょうか？



一括銭の出土状況

草戸千軒町遺跡の出土品(広島県立歴史博物館蔵)

この頃、商業活動にたずさわるものとして、農産物を中心にした特産品を管理・保管し中継ぎ取引をする業者である問や、金銭の貸付などを行う土倉、農産物の加工業である酒屋(酒造業者)の存在が知られています。問や土倉などの業者は、港町に居住し、銀行のように金銭を貸し付けていました。草戸千軒にもこのような金融業者がいたのではないかと考えられています。

さらに、遺跡からは、漆塗りの道具や鍛冶の道具も出土しており、草戸千軒には漆塗りの碗や皿、刃物などを作る職人がいたことが分かります。

また、羽子板やサイコロなども出土し、当時の人々の遊びの様子についてもうかがうことができます。この他に200基ほどの井戸も見つかっています。

さらに、中国、朝鮮半島、ベトナムなどで作られた陶磁器も見つかっていることから、貨幣経済が発展しており、日本各地や東アジア世界とつながっていたことが出土品からも分かります。



復元された鍛冶屋の様子
(広島県立歴史博物館内)



復元された塗師屋の様子
(広島県立歴史博物館内)



羽子板



サイコロ (1辺6.5mm)



朝鮮の青磁碗



ベトナムの白磁碗



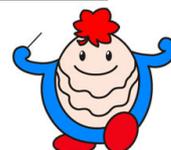
中国の青白磁梅瓶

草戸千軒町遺跡の出土品
(広島県立歴史博物館蔵)



木組井戸 (円形井戸)
(広島県立歴史博物館提供)

草戸千軒における民衆の仕事や暮らしについて、調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！



【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

- 広島県立歴史博物館を訪問して実際に調べてみよう！
 - ・草戸千軒町遺跡からは他にどのようなものが出土しているのでしょうか。
 - ・なぜ、草戸千軒は衰退していったのでしょうか。
- 草戸千軒町遺跡の出土品から日本とアジアとの結び付きについて調べてみよう！
 - ・草戸千軒町遺跡の出土品にはどこの国のものがあつたのでしょうか。
 - ・アジアからはどのようにして（方法、ルート）物が運ばれてきたのでしょうか。
- 広島県内の中世の遺跡・町・港を調べてみよう！
 - ・尾道遺跡とはどのような遺跡でしょうか。
 - ・鞆の港はどのような港だったのでしょうか。

広島県立歴史博物館には、草戸千軒の町並みが復元されているんだって！行ってみたいな！



◇広島県立歴史博物館

住所：福山市西町2-4-1 TEL：084-931-2513 H P

◇戦国の庭歴史館

住所：山県郡北広島町海応寺 255-1 TEL：0826-83-1785 H P

※吉川氏城館跡，建築・土木の技術，中世の暮らしなどの資料が展示されています。

◇おのみち歴史博物館

住所：尾道市久保 1-14-1 TEL：0848-37-6555

※尾道遺跡の出土品などが展示されています。

【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

民衆が建てた五重塔

～明王院五重塔（福山市）～

中世以前の五重塔は、全国に10基しか残っていないんだって！



草戸千軒のそばに常福寺という寺院がありました（現在の明王院）。そこにある五重塔（国宝）の伏鉢に「積一文勸進小資」、つまり、民衆が少しずつお金を出し合って五重塔を建立したと刻まれています。そして、お金を出した人々の中には、草戸千軒の住人も多くいたと考えられています。

草戸千軒が栄えた中世という時代は、相次ぐ戦乱や不順な気候など不安定な社会で、民衆にとって必ずしも楽に生きられる世の中ではありませんでした。彼らは、常福寺の五重塔にどのような願いを込めたのでしょうか。



伏鉢（レプリカ）
（広島県立歴史博物館蔵）



明王院五重塔（国宝）